

令和7年度関東高等学校水泳競技大会水球競技【戦評】

会場: 埼玉県立大宮公園屋外水泳場【2025/7/21】

3位決定戦		この試合のプレー集計			
埼玉栄	14	28	SH数	29	神奈川工
4 5 1 4	— — — —	4 0 3 4	速攻数	9	
		10	ST・SB	9	
		13	SH・P誘発アシスト	10	
		42%	GK阻止率	26%	
		3	EX反則数	2	

PSO 新井睦士 蟻名広貴

審判:

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

インターハイ前のいろいろと試すことができる3位決定戦。お互いのベンチワークが見ものでもある一戦だ。

<1P>

センターボールからの埼玉栄攻撃でコントラ反則。そこを神奈川工が突き、⑩仁木が栄GKから退水を誘発して⑩仁木が先制点をマーク。栄もすかさず同点に追いつくが、栄攻撃時にGKパスミス(コート外)。そこから神奈川工速攻を⑨吉田が決めるという栄側にミスが多い序盤。栄側は不調と見たGKを急遽交代へ。それでもリズムは変わらず、神奈川工⑤三宮⑩仁木が連続得点(埼玉栄2-4神奈川工)。ピリオド終盤になってようやく栄DFが落ち着きを取り戻し、神奈川工攻撃の形を作らせずに⑤菊池③吉川が加点し、埼玉栄5-4神奈川工で第1ピリオド終了。栄DFが中途半端な下がり陣形を敷いたため、選手間での役割が不明瞭に陥っていたようだ。得意のマンツーマンDFに切り替えていくかどうか。

<2P>

埼玉栄DFが積極的に前に出て、神奈川工攻撃を高い位置でのノーファウルプレス。神奈川工はなかなか前にボールを運ぶことができず、完全に埼玉栄ペース。そうした展開から連続加点した埼玉栄。特に1:17センターでが決めた8点目は、神奈川工パスを中盤でカットし、トップ位置の④稻垣がキープ力を生かして3人マークを引き付けてからのセンターへのパスからの得点。埼玉栄DF時にベンチから「ハイ！ハイ！」というリズム掛け声に応じてのスイムアタックが機能した第2ピリオドは、埼玉栄9-4神奈川工と埼玉栄が一気に引き離した。

<3P>

栄のDFは改善されたが、攻撃リズムはまた逆戻り。攻め筋が不明確で個々の選手がやや孤立。そこでのミスから神奈川工に逆襲されるという展開が続いた。神奈川工は⑧岡田④高橋③矢邊で3得点。そのうち2点がカウンター攻撃ということから、栄側の攻撃リズムに課題が残る第3ピリオド。埼玉栄10-7神奈川工と点差が詰まって第3ピリオド終了。

<4P>

点差的に余裕のある埼玉栄がどう試合運びを行うか。ここでは序盤に機能しなかった下がりDFで臨んだ。ゴール前にDF人数をかけ、トップ位置を開ける形だが、神奈川工側はそのトップ位置にシュート力のある⑩仁木がボール保持しながらゴールを狙う。下がりすぎの栄DFでは⑩仁木シュートを防ぐことができず、2点差に迫る神奈川工。せっかく点を取った神奈川工だが、こちらのDFも中途半端。もっと強いプレスに出て、栄側を慌てさせれば面白い状況だったが、栄はゴール前の小さな動きでDFの裏を突き、④稻垣⑤菊池が連続得点で再び4点差に広げた(3:33)。時間的に後がなくなった神奈川工はGK外しの7人攻撃。栄側は右サイドへのボールを深追いしすぎて、トップDFが手薄になったところを②池田が7mレンジから伸びのあるシュートを決めて3点差。この作戦は再開後という状況でないと使えないでの、継続できないデメリットがある。点を取ったものの、逆にセンター位置から栄⑪狩野が決めてまた4点差。ここでも神奈川工はGK無7人攻撃で右サイドの7m付近から⑦高岡が決めて3点差に。直後は栄が速攻で取り返すと、最後も神奈川工は7人攻撃で決めて3点差。これでも試合終了。埼玉栄14-11神奈川工で3位決定戦を終えた。

神奈川工が仕掛けたGK無7人攻撃はすべて成功したわけだが、こうした新ルールを活かした作戦は今夏の大会で頻出するような予感。各チームが攻撃、防御でこのパターンの研究を積み重ねていくことが予想され、重要な試合の1点をめぐる段階で活用されることが予想される。カギは7mレンジで伸びのあるシュートを打てる選手を配置できるかどうか。DF側は攻撃側の右0°選手を完全に空け、他の6人をマークしてミスを誘うという陣形も想定される。攻撃側はミス一つでGK不在という大リスクを抱えるだけに、DF側がどうミスを引き出すかがポイント。今夏の大会が楽しみでもある。